

信頼の再構築：AIとトークン化が駆動する ブロックチェーン経済圏の産業実装戦略

経営層向け戦略提言

我々の進むべき道：産業特化型RWAとAI監査の二軸戦略

攻勢① RWAプラットフォーム

短期・中期

急成長するRWA（現実資産トークン化）市場に参入。特定金融資産（プライベートクレジット、不動産）に特化したコンプライアンス遵守型プラットフォームで主導権を確立する。

攻勢② AI監査サービス

長期

「信頼できるAI」という巨大な潜在市場を見据え、AIの意思決定プロセスを検証する「AI監査・トレーサビリティ」サービスを創出し、未来の成長エンジンとする。

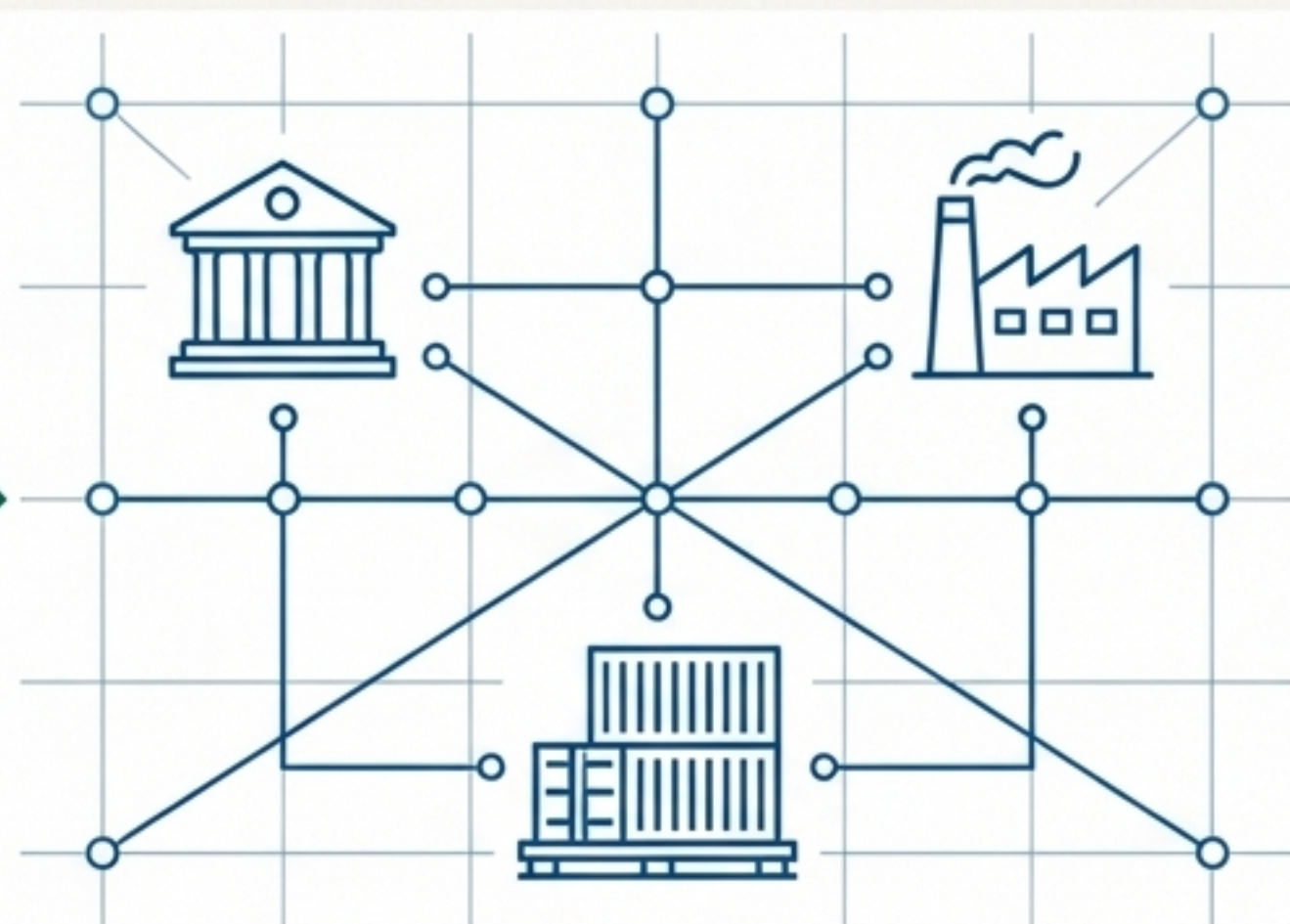
未来の信頼経済圏
における市場
リーダーシップ

市場は転換点を迎えた：投機から「実用価値」へ

過去：投機フェーズ



現在と未来：産業実装フェーズ



- ブロックチェーン市場は、投機的価値を追求する初期フェーズを終え、現実世界の課題を解決し、明確なROIを生み出す「産業実装フェーズ」へと明確に移行した。
- 市場の勝敗を分ける決定要因は、もはやプロトコルの技術的優位性（例：秒間トランザクション数）ではなく、特定の産業課題を解決する「ソリューション提供能力」と「エコシステム形成能力」である。

新たな価値創造を牽引する4つのメガトレンド

今後3～5年の市場成長は、相互に連携し、新たなビジネスモデルを創出する以下の4つのメガトレンドによって牽引される。



1. 現実資産のトークン化 (RWA)

金融市場の流動性と効率性を根本から変革する。



2. 分散型物理インフラ (DePIN)

物理インフラをボトムアップで構築する新たなモデル。



3. 分散型ID (DID)

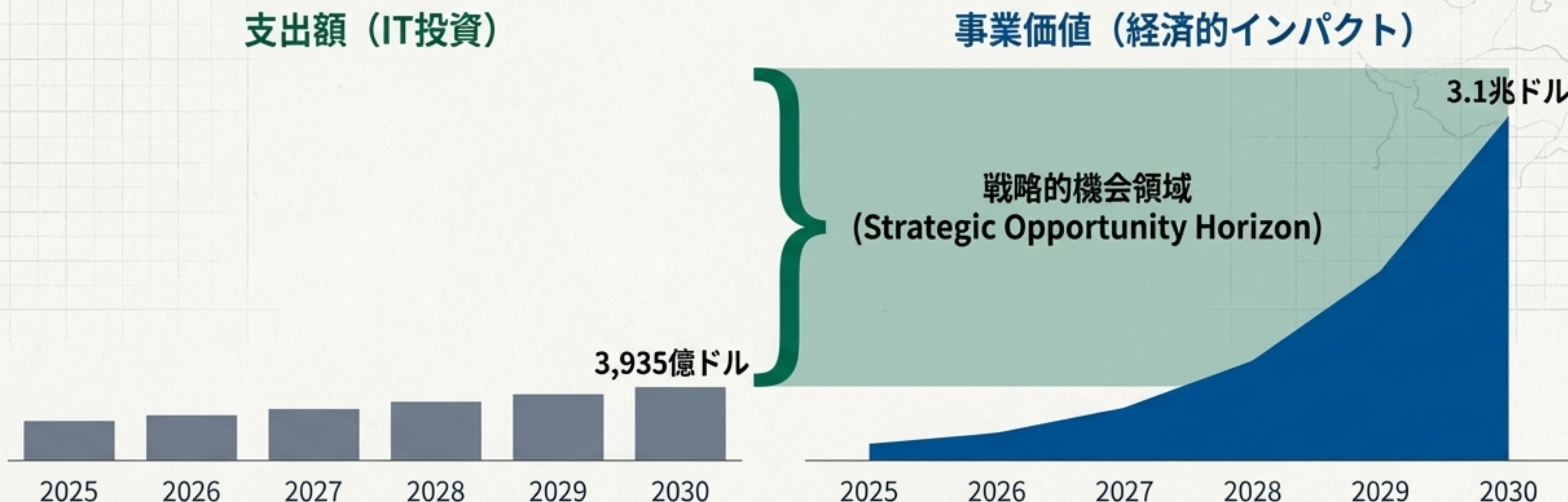
プライバシー保護とシームレスな体験を両立させる新サービス。



4. AIとの融合

「信頼できるAI」の社会実装を加速させる。

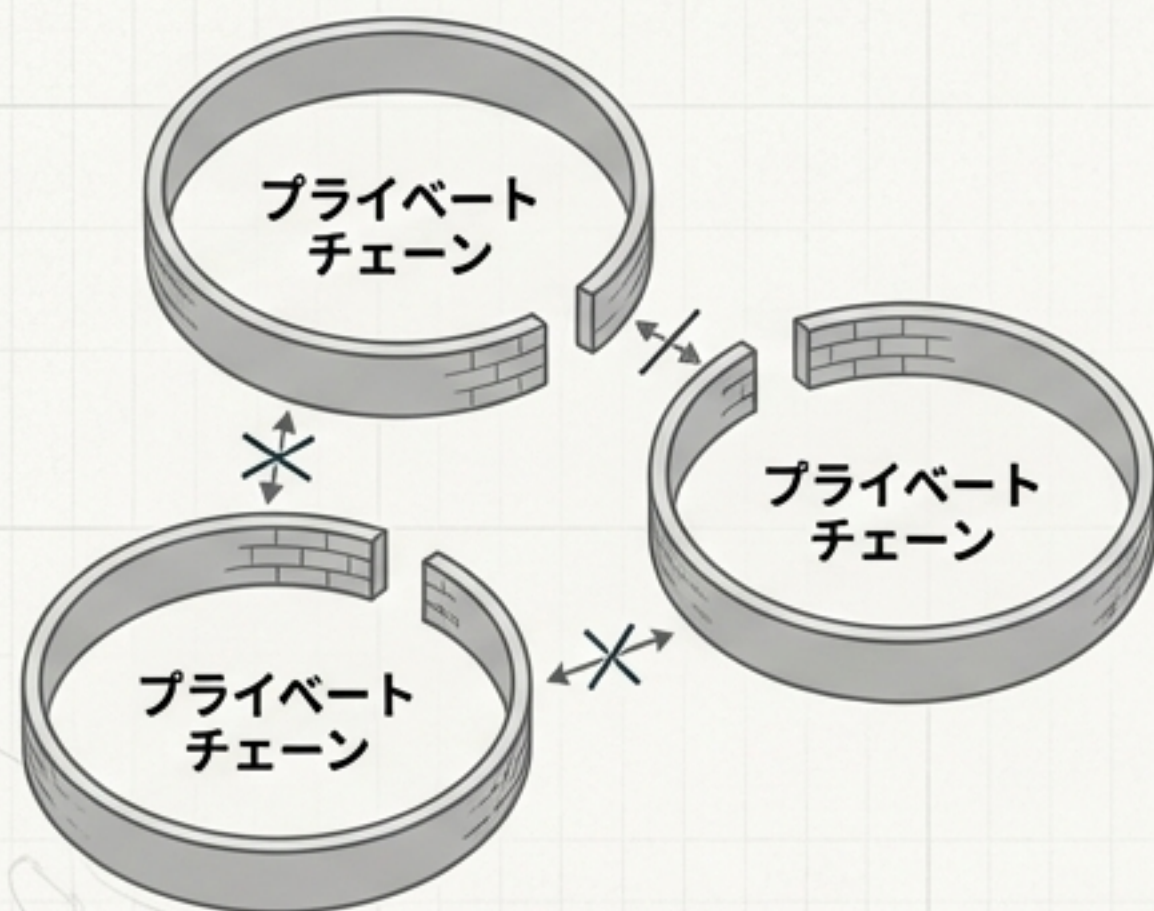
市場の二重構造：IT投資額の先にある「3.1兆ドル」の事業価値



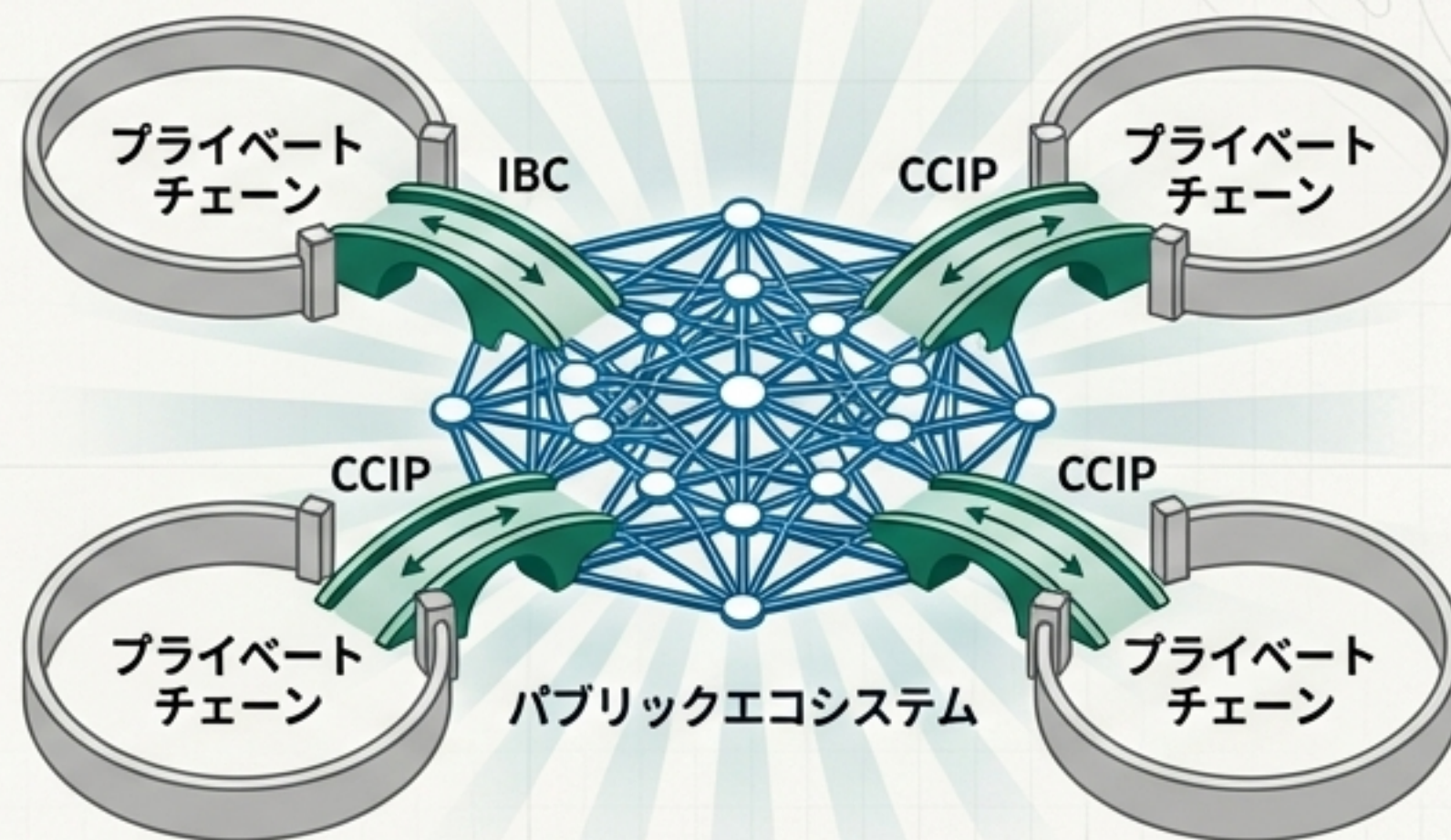
- 市場規模には2つの側面がある。「支出額」ベースの市場は2030年に約3,935億ドル（MarketsandMarkets予測）に達する。
- しかし、真の機会はブロックチェーンがもたらす経済的インパクトの総和、すなわち「事業価値」にある。Gartnerは、この事業価値が2030年までに3.1兆ドルに達すると予測している。
- 我々の戦略は、単なるITサービス販売ではなく、この巨大な事業価値創出を主導することを目指す。

競争の主戦場は「個別技術」から「エコシステム間の相互運用性」へ

旧来の競争：閉じたエコシステム

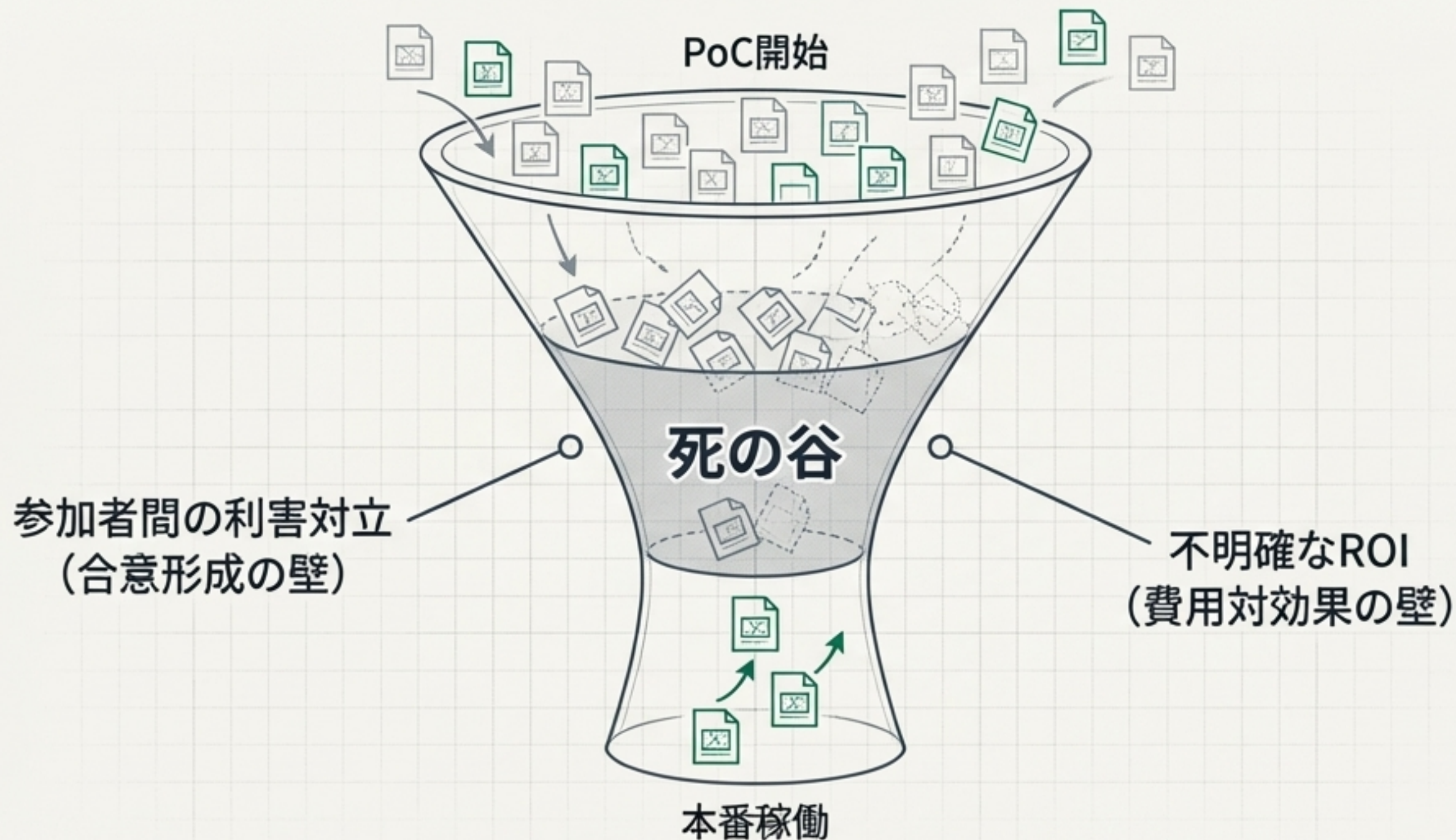


新たな競争：相互接続されたエコシステム



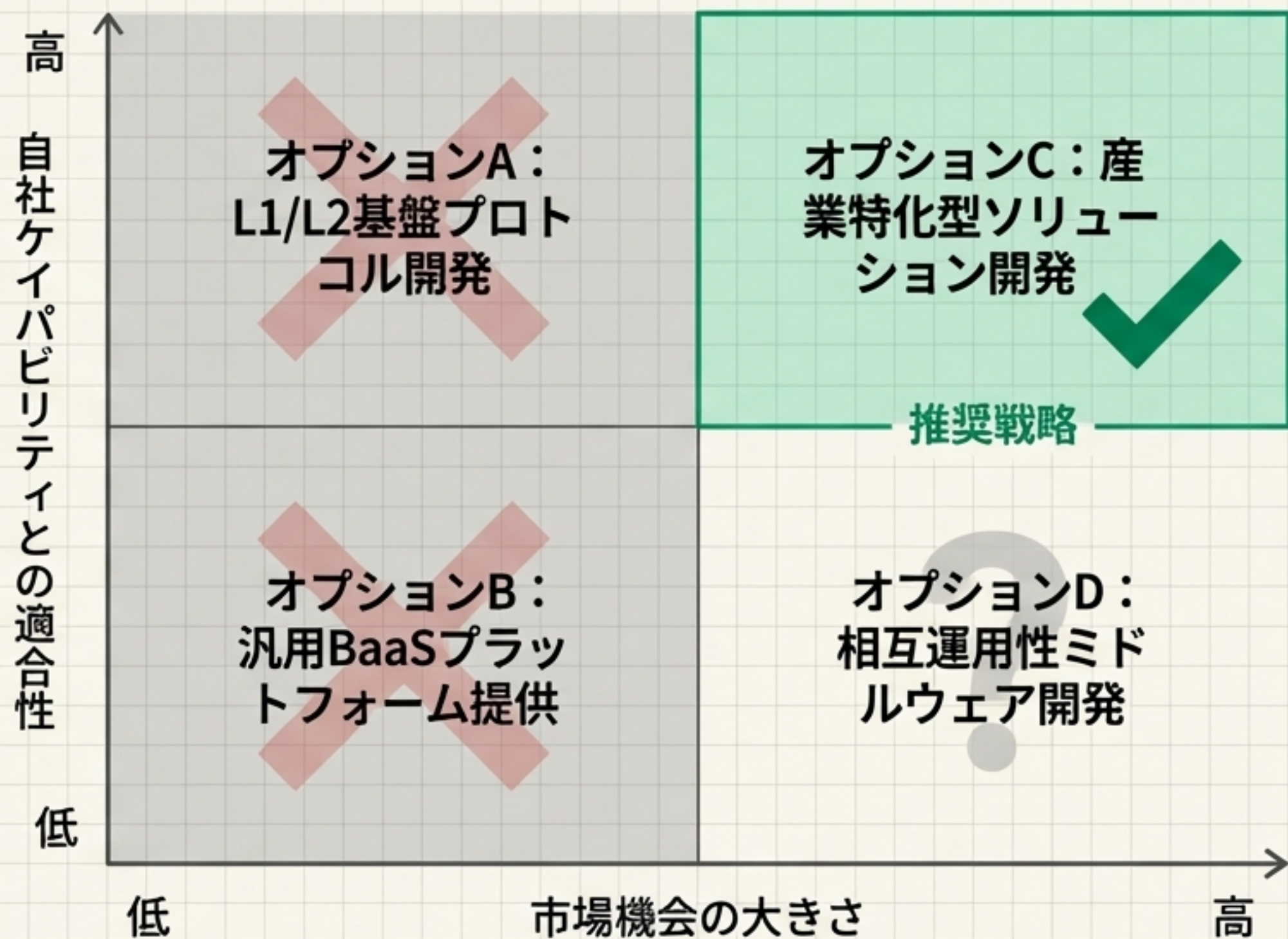
- Five Forces分析が示す通り、価値はインフラ層（クラウド大手）に集中し、競争は激化している。
- もはや単独のプラットフォーム（プライベートチェーン）で市場を制覇することは不可能。企業の需要は、閉じた優位性から、他のエコシステムと連携し、パブリックチェーンの流動性を活用できる「ハイブリッド型アプローチ」へとシフトしている。
- 将来の勝者は、最も多くのチェーンとシームレスに連携できる「ハブ」となるエコシステムである。

95%が失敗する「PoCの死の谷」の正体



- Gartnerの調査では、エンタープライズのPoC（概念実証）のうち、本番稼働に至るのはわずか5%程度に過ぎない。
- その根本原因は技術的課題ではない。真の障壁は「合意形成の壁」と「ROIの不透明性」という、ビジネスと組織の課題である。

我々の戦略：勝てる領域に資源を集中投下する



- 分析の結果、L1/L2基盤プロトコル開発（オプションA）や汎用BaaS（オプションB）は、既に強力なネットワーク効果を持つ巨大プレイヤーとの直接競合となり、成功確率が極めて低い。
- したがって、自社の既存の業界知識や顧客基盤を最大限に活用でき、明確な顧客価値を提供しやすい「**オプションC：産業特化型ソリューション開発**」が、最も合理的かつ成功確率の高い戦略である。

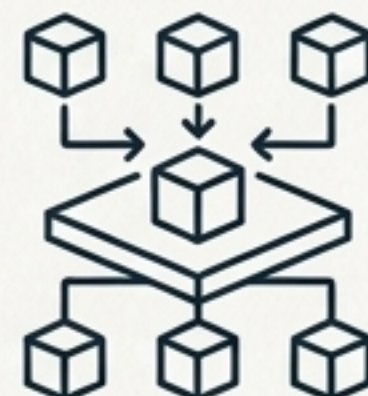
攻勢①：コンプライアンスを武器に、金融RWA市場の主導権を握る



現実資産



法的・コンプライ
アンス対応



RWAトークン化
プラットフォーム



グローバルな
流動性市場

ターゲット市場：

不動産、プライベートクレジットなど、法規制が複雑で高い信頼性が求められる金融資産。

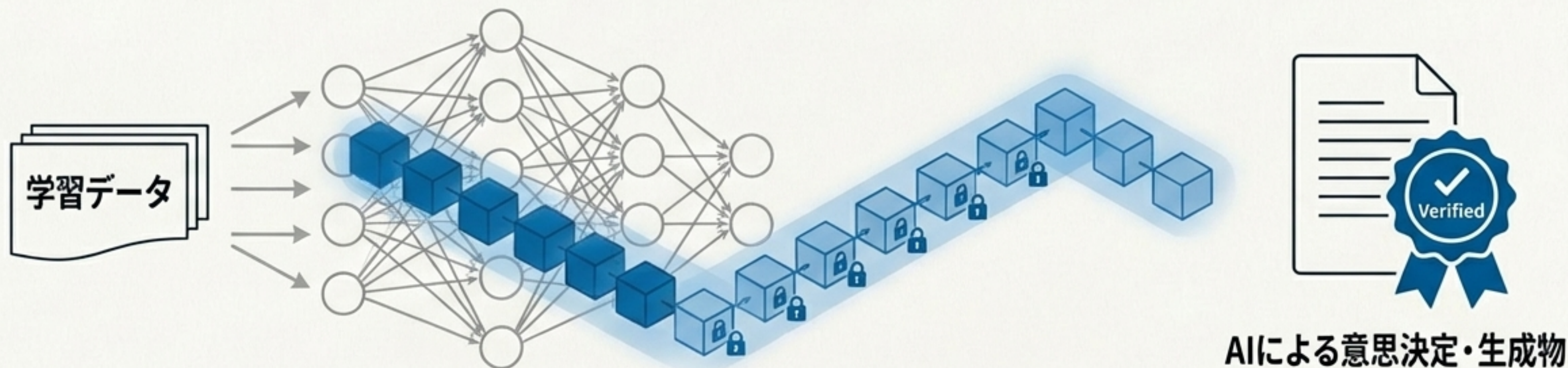
価値提案：

大手金融機関や資産運用会社との提携を軸に、規制に準拠した信頼性の高いトークン発行・管理・流通プラットフォームを構築する。

勝算：

市場が最も求める「信頼」と「規制の明確性」を提供することで、機関投資家を惹きつけ、黎明期にある市場のデファクトスタンダードとなる。

攻勢②：未来の巨大市場を創る「AI監査・トレーサビリティ」事業



市場ニーズ：

AIの社会実装に不可欠となる「説明可能性」と「信頼性」への要求。AIの「ブラックボックス問題」は重大な経営リスクとなる。

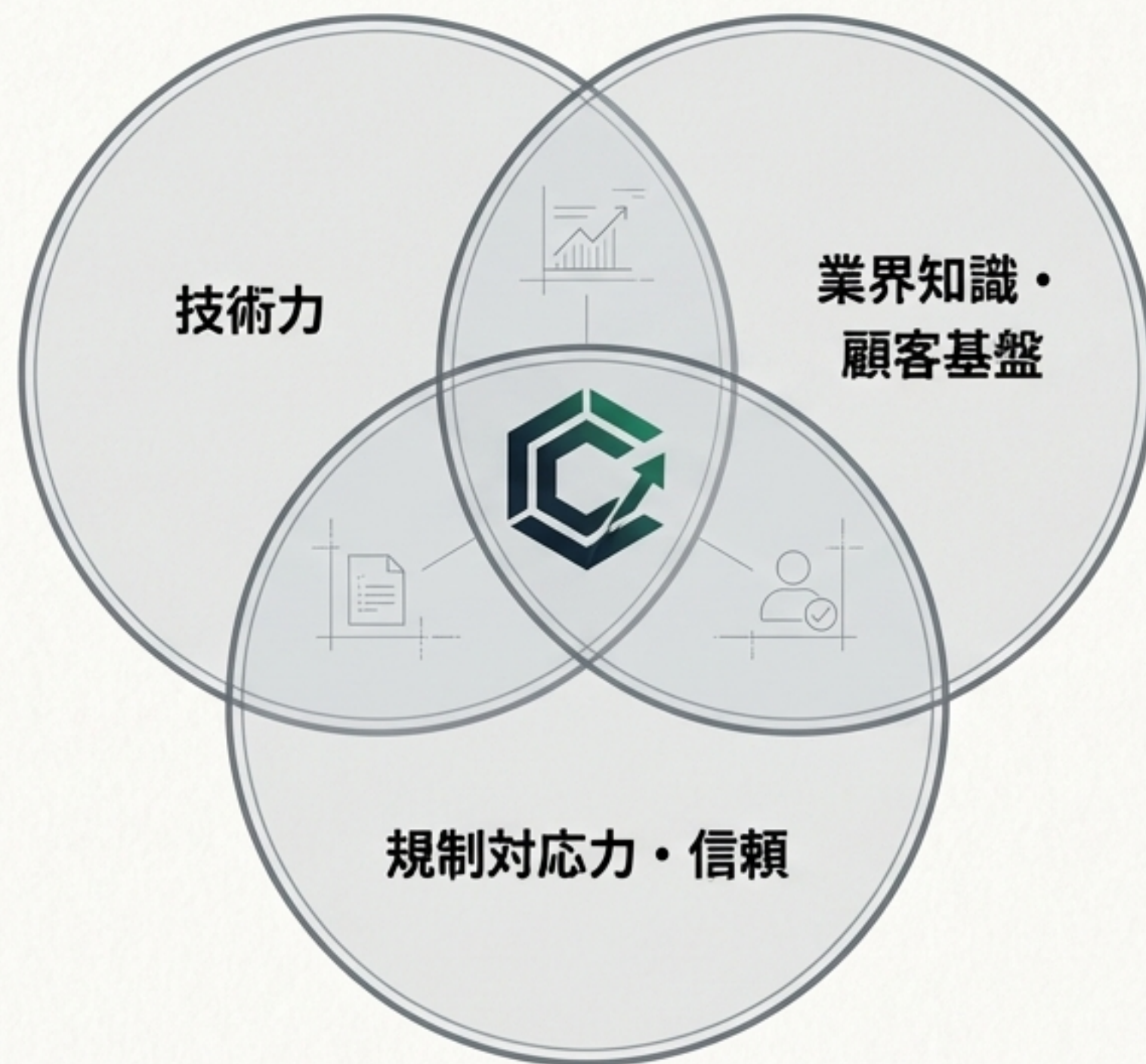
我々のサービス：

AIの学習データ、意思決定プロセス、生成物の真正性をブロックチェーンの耐改竄性を用いて証明する「AI監査」サービスを提供する。

勝算：

すべてのAI活用企業が潜在顧客となるブルーオーシャン市場における先行者利益。ブロックチェーンの本質的価値（信頼の担保）を最も純粋な形で事業化する。

我々の競争優位性：技術力と「信頼」の融合



我々の持続的な競争優位は、単なる技術ではなく、以下の3つの模倣困難な要素の組み合わせから生まれる。

1. **深い業界知識と顧客基盤**：特定産業（金融、製造等）の課題と業務プロセスを熟知している。
2. **規制対応とコンソーシアム形成能力**：規制当局との対話能力と、複雑なステークホルダー間の合意形成を主導するノウハウ。
3. **ブランドが持つ信頼性**：長年かけて築き上げた、セキュリティとコンプライアンスに対する社会的な信頼。

実行計画：3フェーズで市場リーダーシップを確立する

Phase 1 (1-2年)



RWAプラットフォームの 立ち上げと基盤確立

- 金融機関とのコンソーシアムを形成し、最初のトークン化案件を成功させる。

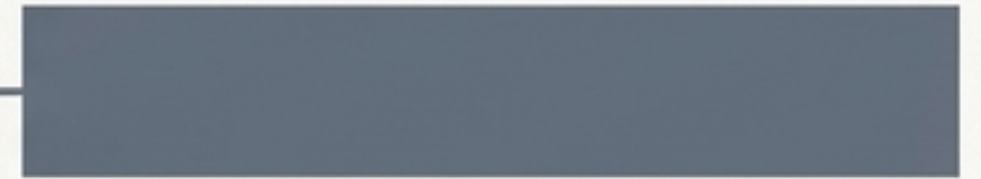
Phase 2 (2-3年)



AI監査サービスの開発 とPoC

- R&Dチームを組成し、パートナー企業と共同で技術・ビジネス価値を検証。

Phase 3 (4-5年)



両事業の本格展開とシナ ジー創出

- RWAプラットフォームの対象資産を拡大し、AI監査サービスを正式ローンチ。事業間のシナジーを追求する。

投資対効果：未来の「信頼経済圏」の中核を担う

投資



人材

(専門チームの組成)



資本

(プラットフォーム開発)



期待されるリターン



市場シェア &
新規収益源



戦略的ポジショニング
代替不可能な「信頼のアンカー」

必要な投資：

専門チーム（ブロックチェーンエンジニア、金融法務、AI/MLエンジニア等）の組成と、プラットフォーム開発へのリソース集中。

期待されるリターン：

- 短期：RWA市場における新たな収益源の確立と市場シェア獲得。
- 長期：「信頼」そのものを商品とするAI監査市場の創造と支配。
- 戦略的価値：次世代のデジタル社会インフラにおける、代替不可能な「信頼のアンカー」としての地位を確立する。

ブロックチェーンは「技術」から「社会インフラ」へ。 我々がその構築を主導する。

- 市場は、我々が持つ業界知識、顧客基盤、そして信頼という強みを最大限に活かせるフェーズに突入した。
- この二軸戦略は、現在の確実な機会を捉えつつ、未来の巨大な市場を創造する、最も合理的かつ野心的な道である。

Call to Action: 提言する二軸戦略を承認し、Phase 1実行のためのリソース配分を決定されたい。

Appendix: 用語集

RWA (Real World Asset)

不動産、債券などの現実世界の資産。

DePIN (Decentralized Physical Infrastructure Networks)

トークンインセンティブを用いて物理インフラを分散的に構築・運用するモデル。

DID (Decentralized Identifier)

特定の組織に依存しない分散型のデジタルID。

ZKP (Zero-Knowledge Proof)

ある情報を開示せずに、その情報を知っていることを証明する暗号技術。

PoC Purgatory (PoCの死の谷)

多くのプロジェクトが概念実証 (PoC) 段階で停滞し、本番稼働に至らない現象。